

(様式1)

学校番号 (小・中 26)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(和田小)学校運営協議会長

<本年度の目標>

児童の安全や居場所づくり、地域の魅力を生かした授業づくりなど、学校の課題に新たな提案ができるよう、地域の各組織や学校職員との連携をさらに深める。

- 協議会・熟議内容の周知(地域・保護者)
- 学校職員と話し合いの場の設定
- 地域人材の掘り起こし

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒  ア よくできた  イ できた  ウ あまりできなかった  エ できなかった

(評価はアとイの真ん中)

(理由)

学校側から提示されたランドデザインや経営構想に対し、校長をはじめ各担当教職員から丁寧に分かりやすい説明があり、委員が学校運営について深く理解することができたと思う。特に、昨年度より行っている教職員とのグループ協議は、先生方の子供たちへの熱意や寄り添う姿勢を直接感じ取ることのできる貴重な機会となっている。一方で教育を専門としない多くの委員がどれだけ教育用語を理解できたかについては不安が残る。今後、学校の目指す子供の姿や教育活動についてより理解を深める必要がある。発言しやすい雰囲気がより広まったよさを生かし、各委員が意見を伝え合い、一層充実した熟議を行っていききたい。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒  ア よくできた  イ できた  ウ あまりできなかった  エ できなかった

(理由)

本年度、単発的なボランティアだけでなく、総合的な学習の時間に単元全体に地域が関わる活動が実施できたことは大きな成果であると考えられる。また、具体的な活動として、新1年生の集団下校見守りや「町たんけん」や「家庭科の学習支援」など地域安全推進員や多くのボランティアの協力を得られたことから学校の「地域に開かれた教育活動」への支援をすることができていると考えられる。今後の課題としては、学校・家庭・地域の明確な役割分担に関する議論が十分ではなかった点が挙げられる。今後は、行ったボランティアのチラシを委員にも配付・共有し、運営協議会として各委員がどのような支援をすべきか、より踏み込んだ協議をしていきたい。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒  ア 充分に行った  イ 行った  ウ あまり行わなかった  エ 行わなかった

(理由)

「コミスクだより」や学校ブログ、さくら連絡網などを活用し、写真を取り入れた視覚的に分かりやすい情報発信を継続して行った。特に「コミスクだより」は親しみやすい誌面へと工夫され、地域住民への回覧や公式サイトへの掲載を通じて、活動の周知に努めることができた。また、委員が自身の所属する組織(民生委員定例会等)で直接説明を行うなど、草の根の広報活動も浸透に寄与している。今後は、限られた紙面の中で協議内容をいかに正確に伝えるかという編集上の工夫や、発行回数、時期を検討するなどよりよい情報発信の方法を考えていきたい。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

児童の豊かな学びに結びつく地域人材を活かした活動や保護者や地域の方によるボランティア活動をさらに進める。そのために地域の組織やPTA、学校職員との連携を今以上に深める。

- 協議会・熟議内容の周知(地域・保護者)
- 学校の課題に対しての提案
- 学校職員との話し合いの場を設定

※印刷時に、文末まで印字されているかを必ず確認してください。